

# 日田市立博物館基本計画

日 田 市 立 博 物 館



# 目 次

## I 施設整備に向けた基本的な考え

1. 新博物館の基本理念	1
2. 整備方針	2
3. 活動方針	2
(1) 自然の再発見	
(2) 自然と人への思いやり	
(3) ワクワク・ドキドキ	
(4) 市民参加の館	
(5) 自然界の様子を探る	
(6) 自然のタイムカプセル	

## II 施設整備計画

1. 施設のゾーニング計画	4
2. 施設の構成	4

## III 展示計画

1. 展示計画の概要	5
2. 展示室の構成	5
2-1 常設展示室	
・プロローグ	
(1) 日田の地形のなりたちゾーン	
(2) 日田の自然と暮らしゾーン	
(3) 日田の星空ゾーン	
(4) 筑後川の生き物ゾーン	
・情報コーナー	
2-2 企画展示室	
3. 収蔵計画	9

## IV 博物館活動計画

### IV 管理運営計画

1. 管理運営方針	10
2. 管理運営体制	10
3. 開館に関する事項	11
4. 他施設などとの連携	12
5. 市民との連携	12

《参考資料》 基本計画策定の経緯	12
------------------	----

**【資料編】**

(別冊、図面関係)

・中央公民館現況平面図	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	資-1~2
・複合文化施設配置図(案)	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	資-3
・平面図(改修後)(案)	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	資-4~5
・収蔵庫棟平面図(案)	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	資-6~8
・展示構成(案)	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	資-9
・展示計画平面図(案)	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	資-10~11

## I 施設整備に向けた基本的な考え

### 1. 新博物館の基本理念

近年、野生生物の生息環境、生態系全体のつながりを含めて自然環境の保全を図ることを目的とした「生物多様性基本法」が制定されるなど、自然環境問題が注目を集めるようになり、市民の自然環境に対する関心は一層の高まりを見せています。

一方、博物館を支えてきた市民団体の高齢化や博物館の老朽化も著しく、博物館が市民の学習意欲に応えられるよう今後充実した活動を進めていくためには、以下のとおり体制づくりも含めた見直しを行う時期を迎えています。

新たな博物館では、市民が日田の自然と人々の暮らしとの関わりに気付き、関心を抱かせる展示や自然環境学習などの事業活動を行うことが求められているとともに、市民が自然環境への理解を一層深め、次の世代に自然環境保全の大切さを伝えられるよう取り組みを進めていくことが必要です。

また、子どもたちの自然への関心が遠のいている中で、学校の授業だけではなく、博物館で「自ら進んで学び・体験をすること」を通して自然や科学に興味を持つ子どもたちの育成を図っていくことは、社会教育施設として博物館が果たすべき重要な役割の一つです。

さらに、自然環境についての市民の「学び」の多様化が進む中で、博物館には専門的な知識を持った人材が備わり、市民に協力できる体制が期待されています。

このほか、自然環境や生物多様性の保全を普及啓発するためには、自然環境を調査し、資料の整理・研究を行い、その成果を情報発信する必要があります。また、調査で得られた資料や市民から寄贈を受けた貴重な資料が劣化しないよう大切に保管するための施設も必要です。

こうしたことを実現するために、平成 23 年 3 月に策定した「日田市立博物館基本構想」に基づき、日田市ならではの特色ある博物館を整備し、地域資源でもある自然を守り育て、自然と共生する中で市の将来都市像でもある「人と自然が共生し、やすらぎ・活気・笑顔に満ちた交流都市」の実現に寄与することを目指します。

#### 【新たな博物館として目指すもの】

##### 1. 見やすくわかりやすい展示

- ・展示機能の充実

##### 2. 自然環境学習の推進や自然環境保全に向けた普及啓発活動

- ・市民が自然環境学習に関心を持ち積極的に参加するような事業活動を推進する。
- ・生物多様性や自然環境保全に向けた普及啓発

##### 3. 自然や科学に関心を持つ子どもたちの育成

- ・学校と博物館が連携を図り、カリキュラムの都合上できないような自然や科学分野の体験学習を博物館で行うことによる、自然や科学に関心を持つ子どもたちの育成

##### 4. 市民の「学び」に協力できる体制づくり

- ・専門知識を持つ学芸員の確保とともに、博物館活動に積極的に参加する市民ボランティアの育成

##### 5. 自然調査研究活動とそれにもとづく情報発信

- ・市民の自然環境保全への理解につながる自然環境調査と資料の研究活動、及びその成果を市民に公開するための情報発信

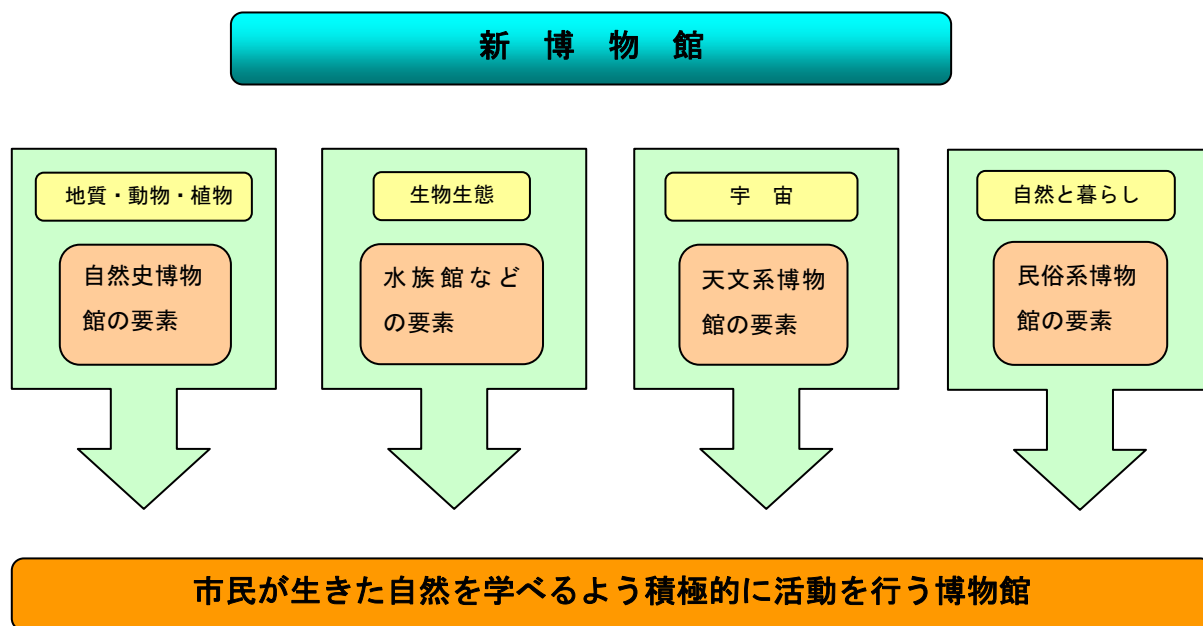
##### 6. 適正な資料の保存管理

- ・収蔵庫の設置

## 2. 整備方針

新たな博物館では、地質・動物・植物など自然界を構成する要素を中心に、水族館などが扱う生態展示も取り入れるほか、自然と人々の暮らしにまつわる民俗展示や天体・宇宙に関する展示も行います。

このように新たな博物館は、様々な分野の展示を行うことにより、市民が生きた自然を学び、日田の自然や文化などを積極的に情報発信する博物館を目指します。



## 3. 活動方針

### (1) 自然の再発見（見やすくわかりやすい展示）

日田の地形や自然のなりたち、四季の移り変わり、生物の営みなどの展示を通して自然の豊かさを再発見し、また実際に展示物に触れたりすることにより、自然を体感できる機能を持った施設の充実を目指します。

### (2) 自然と人への思いやり（自然環境学習の推進や自然環境保全に向けた普及啓発活動）

自然の雄大さやいのちの大切さに気づき、自然を通して人と人が「互いに学び合う」楽しさを市民が共有できる自然環境学習を展開していきます。また、自然や生物の保護・棲息環境の保全などに市民が積極的に関わりを持つ普及啓発活動を行ないます。

### (3) ワクワク・ドキドキ（自然や科学に関心を持つ子どもたちの育成）

多彩な体験教室を開催し、子どもたちに自然や科学に対する発見や感動を与え、本来持っている好奇心や探究心を導き出すことによって、自発的でいきいきとした子どもたちの育成に取り組めます。

### (4) 市民参加の館（市民の「学び」に協力できる体制づくり）

市民の学習意欲を増進させ、博物館の持つ機能や活動を高めていくために、専門的知識を持った学芸員を中心とした博物館運営を目指します。また、市民自らが積極的に博物館活動に参加し、自らの知識を広げるとともに、学芸員を補佐しながら自然環境学習などの支援を行う市民ボランティアの育成を図ります。

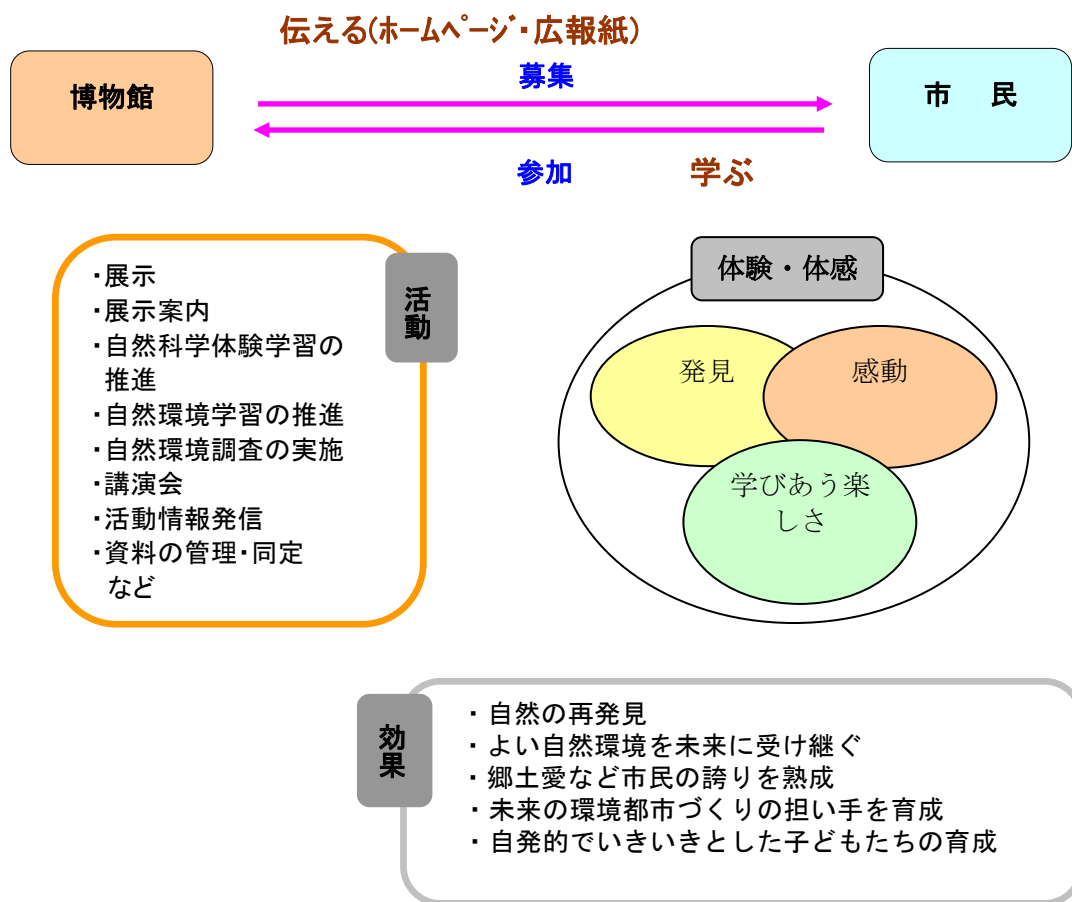
### (5) 自然界の様子を探る（自然調査研究活動と情報発信）

市域における自然環境調査を行い、得られた資料の調査研究を進め、資料を整理することにより明らかとなった成果を市民が享受できるよう積極的に情報発信を行ないます。

### (6) 自然のタイムカプセル（適正な資料の保存管理）

市の自然環境の変化を知る上での基礎資料となる植物・昆虫・化石・鉱物などの標本のほか、調査によって収集される資料を後世に残していくために、収蔵庫を設置し温湿度調整など適正な保存管理に努めます。

## 博物館活動のイメージ図



## II 施設整備計画

### 1. 施設のゾーニング計画

新博物館は、複合文化施設（中央公民館）内の3階部分を活用し、常設展示室や企画展示室、体験学習室、情報コーナー等を設置します。なお、企画展・特別展については新たに開設予定の大展示ギャラリーとの共用も可能とし、体験学習室は必要に応じて施設共有の会議室としても活用することとします。

また、収蔵庫は温湿度管理が可能なものとし、新築の収蔵庫棟の3階に配置します。

(資料編 P1～P8 平面図等参照)

### 2. 施設の構成

現博物館の面積は 345 m<sup>2</sup>で不十分な規模ですが、博物館活動を積極的に推進していくため、新博物館の施設構成について以下のとおり設定します。

新博物館の施設構成

施設名	面積	備考
常設展示室	380 m <sup>2</sup>	[第1展示室] 315 m <sup>2</sup> ・日田の地形のなりたちゾーン ・自然と私たちの暮らしゾーン ・日田の星空ゾーン [第2展示室] 65 m <sup>2</sup> (収納庫含む) ・筑後川の生き物ゾーン
企画展示室	75 m <sup>2</sup>	(収納庫含む)
エントランス (展示室入口)	32 m <sup>2</sup>	
情報コーナー	74 m <sup>2</sup>	環境保全団体の活動紹介コーナー、図鑑などの 図書や教材を閲覧できるコーナー、埋蔵文化財 センター紹介コーナー
体験学習室(兼講座室)	72 m <sup>2</sup>	(共用の会議室としても利用)
ボランティアルーム (兼資料整理室)	49 m <sup>2</sup>	標本作製作業等
事務室	93 m <sup>2</sup>	
トイレ、エレベーター	49 m <sup>2</sup>	多目的トイレ含む
倉庫	112 m <sup>2</sup>	資材、機材 (天体望遠鏡など)
通路ほか	122 m <sup>2</sup>	
収蔵庫	195 m <sup>2</sup>	別棟 (新築)
計	1,253 m <sup>2</sup>	



### Ⅲ 展示計画

#### 博物館のコンセプト

ふるさと日田の豊かな自然を再発見し、自然と人々との関わりを学ぶ場所

#### 1. 展示計画の概要

##### 【基本構想に基づく新たな博物館像】

新たな博物館においては、博物館基本構想に基づき、日田に見られる地質・動物・植物などの自然界を構成する要素を中心に、水族館などが扱う生態展示や天体・宇宙に関する展示、合わせて自然と人々との関わりなどの展示も行います。日田市民が自然の再発見や郷土愛を育み長い歴史の中で守り継がれてきた自然環境を後世に残し、未来に伝える役割を担う博物館とします。

##### 【新たな博物館が目指す展示内容】

日田の地形や自然のなりたち、四季の移り変わり、生物の営みなどの展示を通して、日田の水・自然の豊かさと人々の暮らしとのつながりを再発見し、また実際に展示物に触れたりすることにより、自然を体感できる機能を持った施設の充実（見やすく分かりやすい展示）を図ります。

##### 【展示ゾーニング】

###### (1) 日田の地形のなりたちゾーン

海や湖、大地の記憶、人々が暮らす土地のはるかな歴史が見えるゾーン

###### (2) 日田の自然と暮らしゾーン

自然と私たちの暮らしのつながりについて考えるゾーン

###### (3) 日田の星空ゾーン

地球から宇宙へ視野を広げ、自然や生命の神秘を感じるゾーン

###### (4) 筑後川の生き物ゾーン

ふるさとの川など自然界に生息する生き物を学び、日田の自然について考えるゾーン

#### 2. 展示室の構成

(資料編 P9～P11 展示構成、展示計画平面図参照)

##### 2-1 常設展示室

###### ○プロローグ

###### 【内容】

隕石や九州・山口で発見された化石などを使って、地球の誕生と生物の進化がわかる展示を行う。

## (1) 日田の地形のなりたちゾーン

### 【テーマ】

ふるさと日田の地形がどのようにしてできたのか、また、大昔にはどのような生き物がいたのか見てみよう！

### 【ポイント】

岩石や化石を調べることにより、日田を形成してきた大地の歴史の跡をたどることができる。ミニジオラマや映像を見たり、実物に触れたりすることにより、市民や子どもたちが日田の地質や地学についての興味を持つことができる。

### 【内容】

- 日田の地質の歴史が年代的に把握できるよう整理する。
- 9万年前の埋没樹木など実物資料の展示を行う。
- 地形の変化がより具体的に理解できるよう必要に応じてジオラマ（模型）を設置する。
- 火山活動により生成された鉱物や岩石のうち、実際に道具や産業などで使われてきたものを展示する。
- 日田の地形のなりたちが理解できる映像コーナーを設ける。
- 阿蘇火砕流により埋没した後に、森が復活した様子をジオラマで再現する。

## (2) 日田の自然と暮らしゾーン

### 【テーマ】

ふるさと日田の特徴的な自然や四季の変化を見てみよう！日田の自然と特に関わりの深い川とともに暮らしてきた日田の人々の暮らしを訪ねてみよう！

### 【ポイント】

高低差 1,000mを超える日田市独特の地形は、様々な生命を育み、四季折々に豊かな自然の表情を見せてくれる。特徴的な日田の四季折々の風景やそこに暮らす生き物の生態及びビデオや写真、剥製、標本などを展示することにより、日田市の自然の豊かさを実感させることができる。

自然とともに暮らしてきた人々の歴史を知ることや、今の人々が川に棲む生き物及び水環境の保全に取り組んでいることを市民に知ってもらうことで、自然やふるさとに対する愛着が生まれる。

### 【内容】

#### 《日田の自然》

- 日田の特徴的な盆地地形を示すジオラマ（地形模型）を作成するほか、日田の自然や気候、植生などをわかりやすく展示する。
- 剥製や植物・昆虫標本など実物資料の展示を行う。
- 原生林や里地里山の四季を紹介する映像コーナーを設ける。

## 《人々の暮らし》

- ジオラマや実物資料を使って、自然と人々の暮らしのつながりがわかる展示を行う。
- 記録などから日田の水害史がわかる展示を行う。
- 筑後川の筏流しや漁、鵜飼など、川と人々の暮らしを紹介する映像コーナーを設ける。

### (3) 日田の星空ゾーン

#### 【テーマ】

日田の夜空に浮かぶ星たちの謎をさぐってみよう！

#### 【ポイント】

宇宙の星々の誕生の謎や太陽、惑星の不思議を知ること、宇宙や科学に関心を抱かせることができる。

#### 【内容】

- 宇宙のことがわかる簡単なミニプラネタリウム（星ナビゲーションなど）の装置の設置
- 宇宙が身近に感じられるよう写真を活用するほか、実際に観察を体験してもらうための装置の設置
- 天体や宇宙についてわかりやすく解説する映像コーナーを設ける。

### (4) 筑後川の生き物ゾーン

#### 【テーマ】

筑後川流域の淡水魚など、川の生き物を観てみよう！

#### 【ポイント】

筑後川流域に生息する淡水魚や両生類等の生態展示を行う。

#### 【内容】

- 川の生き物の生態が詳しく観察できるための水槽の設置  
(博物館展示室のほか、施設1階のエントランス・ホールの活用も検討する。)
- パネルを使って淡水魚や両生類等の特長を紹介する。
- 甲殻類など実際の生き物に触れるタッチングコーナーの設置

### ○情報コーナー

#### 【内容】

- ・市民団体による川の生き物や水環境の保全の取り組みの紹介
- ・埋蔵文化財センターの紹介
- ・図鑑などの図書や教材を閲覧できるコーナー

## 2-2 企画展示室

企画展示室では次のような展示を行います。

- ・調査等で明らかとなった地域の自然環境などの情報を展示
- ・貴重な資料を他の博物館などから借用し、自然環境保全をはじめとする普及啓発活動を行っていくための展示（1階の展示ギャラリーを活用しての特別展も開催予定）
- ・博物館活動に参加する市民などが目的に応じて博物館を利用して行う展示

### 3. 収蔵計画

#### 【テーマ】

未来に伝える日田の自然遺産

#### 【ポイント】

資料の特性に合わせて標本の種類ごとにまとめて保管を行う。

#### 【内容】

- 温度・湿度を一定に保つ機能が備わった収蔵庫
- 資料の特性に応じた保管棚の設置
- 資料のデータベース化

#### 《1階収蔵庫》

##### ●埋没樹木

小野川で出土した埋没樹木

収蔵面積 24.3 m<sup>2</sup>

- ・劣化を防ぐための薬剤塗布の必要があることから、なるべく間合いを広くとる。
- ・温度は20～25度を保つ。

#### 《2階収蔵庫》

##### ●化石・岩石・鉱物、貝類標本

市内を中心に産出している化石・岩石・鉱物標本（約1,400点）、貝類標本（約1,000点）

収蔵面積 約15.3 m<sup>2</sup>

- ・コンテナに登録番号順に入れて保管する。
- ・収納棚はコンテナの積み重ねが可能（安定を考慮して3個程度）なもの

#### 《3階収蔵庫》

##### ●植物標本

市内で採集された植物標本（約8,000点）

収蔵面積 約80 m<sup>2</sup>

- ・室温は20～25度、湿度は50%に保つ。
- ・衣装箱に入れたものを収納棚に保管する。

##### ●昆虫標本

市内や県内で採集された昆虫標本（約12,000点）

収蔵面積 約50 m<sup>2</sup>

- ・室温は20～25度、湿度は50%に保つ。
- ・収納棚は標本がなるべく動かないよう横向きに入る保管棚が望ましい。

##### ●動物標本

市内で見られる動物剥製他（約20点）

収蔵面積 約25 m<sup>2</sup>

- ・室温は20～25度、湿度は50%に保つ。
- ・剥製類は大きいので、高い棚の収蔵棚が望ましい。

## IV 博物館活動計画

I - 3. 活動方針の(2)～(4)に掲げている内容を実現するため、植物・昆虫教室や科学実験教室などの自然環境学習を推進していきます。また、自然環境保全活動や博物館活動を支える後継者(市民ボランティア)の育成を図ります。このため、以下の施設を設けます。

### 【体験学習室】

- ・植物・昆虫教室や科学実験教室などの体験学習を通して、自然や科学の大切さや楽しさを学ぶ場として活用する。

### 【ボランティアルーム】

- ・市民ボランティアが博物館活動に参加し事業を遂行するための作業場や会議室として、また、自然環境調査等を通して得られた資料の整理を行うための場として活用する。

## V 管理運営計画

### 1. 管理運営方針

自然そのものが生命を育む母体であり、人は限りなくその恩恵を受けてきました。また、日田の豊かな自然が今日まで残ってきたことは、人と長い歴史の中で有機的な関係を持ちながら、特色ある生態系を築いてきたからにほかなりません。昭和35年に開館して以降、今日まで博物館に残されている標本などの資料の大部分は、市民が意思を持って採集し寄贈いただいた、日田の自然と人の営みの証となる大切なものです。

これらを保存・保管することで後世に伝えるとともに、その資料を有効的に活用することにより、市民が郷土の自然や文化に誇りを持ち、未来を創造していくことが重要であり、博物館はその役割を果たす必要があります。このことから、博物館は市が直営で管理運営を行います。

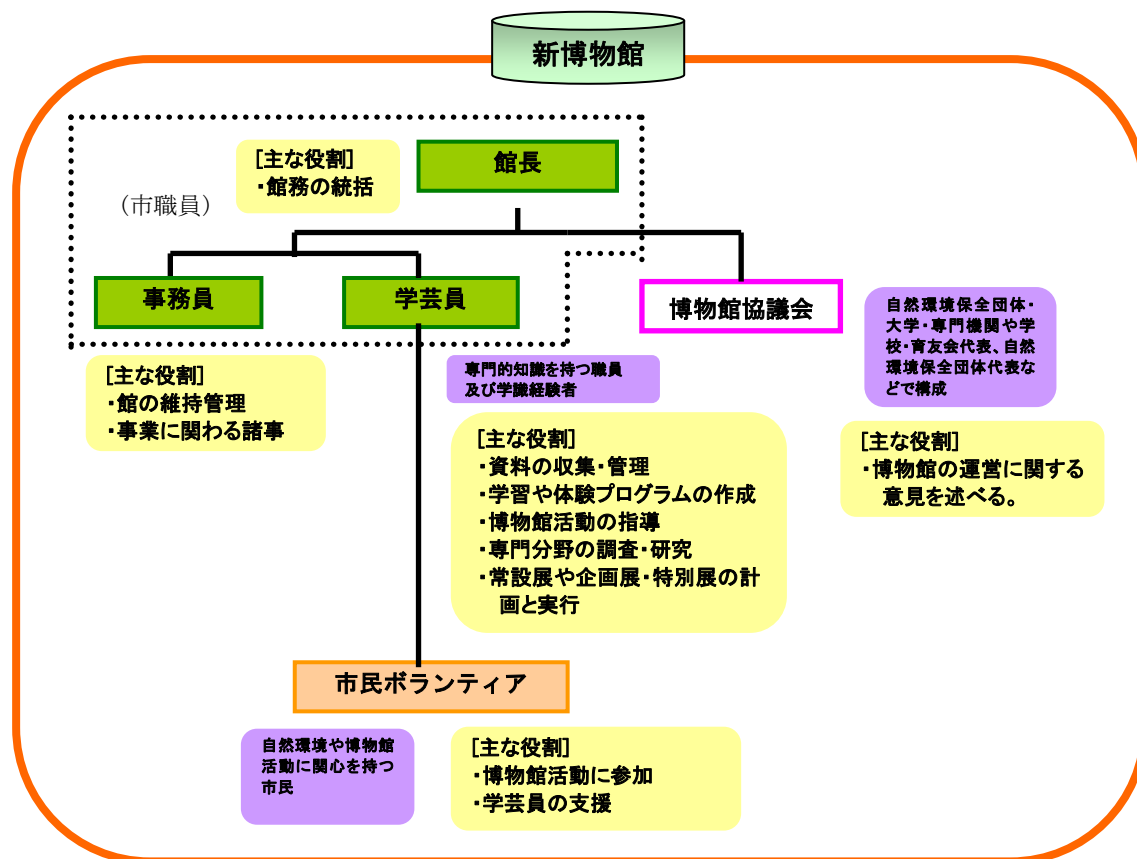
なお、特別な場合を除き入館料は無料とします。

### 2. 管理運営体制

博物館資料の保存管理や博物館活動を推進するため、学芸員を中心とした管理運営を行います。ただし、行財政改革の観点から、今後、指定管理委託(学芸員を含む。)を行うことも検討していきます。

博物館活動を活発に進めていくために、自然環境保全団体のほか、大学・専門機関や学校・育友会代表などの有識者による、専門的立場や来館者の観点を踏まえて意見を述べる博物館協議会を設置します。

【博物館事業運営のイメージ図】



### 3. 開館に関する事項

博物館は、複合文化施設内の美術品展示、生涯学習の各エリアの来館者の利便性も考慮し、可能な限り統一した開館時間及び休館日を検討します。

なお、博物館の開館は平成 28 年 8 月を予定しており、年間入館者数については以下のとおり見込んでいます。

新博物館の年間入館者数（見込み）

展示・行事等	内容	入館者数	備考
常設展示		3,060	一般；10人×306日
社会見学（小学生）		600	小学4年生
企画展	調査、収蔵資料等の展示	500	年1回開催
特別展	他施設の資料等展示	1,500	〃（講演会等を含む）
自然研究作品展	小中学生の作品展	430	過去の実績より
体験学習室	科学実験教室、少年少女発明クラブ等	360	60人＋（25人×12月）
ボランティアルーム	調査、整理作業等	120	10人×12月
各種講座・イベント	自然観察会、自然体験教室等	370	過去の実績より
その他	資料調査・同定依頼等	60	5人×12月
計		7,000	

#### 4. 他施設などとの連携

博物館で行う企画展や特別展においては、県外の公立博物館などから貴重な資料を借用した展示や、講師を招いての講演会や自然体験教室を開催するなど、他の施設との連携を図りながら博物館事業を進めます。

なお、環境保護団体の活動の紹介や埋蔵文化財センターに関する情報発信なども併せて行います。

#### 5. 市民との連携

専門的知識を持つ学芸員や小・中・高・大学の先生方など有識者の指導及び協力を得ながら、展示資料や機能面の充実、学校や公民館と連携した取り組み、市内の自然環境の調査研究を行うとともに、市民ボランティアを募集し、展示ガイドなど博物館活動をサポートする体制の整備を図ります。

#### 《参考資料》

#### ○基本計画策定の経緯

博物館基本構想策定から本基本計画策定までの経緯を以下に示します。

策定年月	構想、計画等の内容	備 考
平成 23 年 3 月	「博物館基本構想」策定	新博物館の整備構想等
平成 26 年 6 月	「日田市複合文化施設整備基本方針」策定	中央公民館を複合文化施設（博物館、美術品展示を含む）として整備するための基本方針
平成 26 年 9 月	「日田市複合文化施設整備基本計画」策定	施設・設備に関する考え方、運営に関する考え方等
平成 27 年 3 月	「博物館基本計画」策定	複合文化施設整備基本計画を踏まえたうえでさらに検討を加え、博物館独自の基本計画を策定するもの